

第5学年国語科学習指導案

日時 平成19年9月11日(火)5校時
場所 久慈市立久慈小学校 3階集会室
児童 5年2組 男17名 女17名 計34名
指導者 中塚良久

1 単元名 読書の世界を広げよう

教材名 「千年の釘にいどむ」(内藤 誠吾)「本は友達」(光村図書 5年上)

2 単元について

(1) 指導事項について

国語科第5学年及び第6学年の「C 読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」ことである。本単元で育てたい主となる能力は、「C 読むこと」の内容にある「ア 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと」「エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと」である。

本単元の指導事項は、中学校第1学年の指導事項「C 読むこと」の内容にある「ウ 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること」「エ 文章の展開を確かめながら主題を考えたり要旨をとらえたりすること」につながるものである。

(2) 教材について

本単元「読書の世界を広げよう」は、「千年の釘にいどむ」を読み、白鷹さんの生き方や考え方を読み取る学習をきっかけにして、本の楽しさに気づき、自分の読書の世界を広げ深めていくことがねらいである。

約1300年前に建築された薬師寺東塔以外の建造物を、できる限り当時と同じ方法で再建するにあたり、一流の職人たちが日本中から総動員された。第1教材「千年の釘にいどむ」は、その職人たちの一人である四国の鍛冶職人白鷹幸伯さんの、古代の釘に負けない釘を作ろうとする姿が描かれたドキュメンタリー作品である。古代の釘の見事さを発見し再現していく過程で、釘作りに人生をかけ、材料である鉄の質や形にこだわり、何度も改良をし続ける白鷹さんの職人としての意地や思い、願いが述べられている。

文章は、「白鷹さんが釘作りにいどむようになった理由(形式段落 ~) 古代の釘の見事さ(形式段落 ~) 釘作りにいどむ白鷹さんの思いや願い(形式段落 ~)」という3つの構成で表されている。特に古代の釘の見事さについては、鉄の純度、形、硬さといった3つの側面から説明されているために、児童にとって読みやすい構成になっている。

また、「大きさではないか」「驚くべきことを発見した」など読者の興味をひくような表現を用いたり、白鷹さんの視点で話が進められていたり、「かげも形もない」などの慣用句が効果的に用いられていたりしているなど、文章表現上たくさんの工夫がある。このように本教材は、古代の釘の見事さや、その釘に果敢にいどむ白鷹さんの生き方や考え方を読み取る過程を通して、本の世界の広さや楽しさに気付くことができ、その後の読書活動へ導いていくのにふさわしい教材である。

また、第2教材「本は友達」では、「千年の釘にいどむ」で白鷹さんの生き方や考え方を読み取った学習をきっかけにして、本を選んで読み、友達に紹介するための読書会を開く。本を通じて自分が考えたことや感じたことを感想にまとめ、交流していく活動を通して、友達の考え方や感じ方に触れることができ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。このように本教材は、子ども達の読書の世界を広げ、深めていくためにふさわしい教材である。

(3) 児童について

子どもたちはこれまでの「読むこと」の学習において、「サクラソウとトラマルハナバチ」では、筆者の考えがより明確に伝わるように工夫された文末表現や接続語、文章構成に着目しながら要旨をまとめ、筆者の考えをもとに自分の考えをもつという学習を行った。

この学習を通して、子どもたちは、文末表現や文章構成を手がかりにしながら筆者の主張を自分なりに読み取ることができるようになってきている。しかし、筆者の主張をもとに、適切な言葉を取捨選択して要旨をまとめることができる子どもは少ない。また読み取った内容や自分の考えを交流して、学び合うことについても十分とはいえない。

読書については、学級内で目標冊数を定めて取り組みを行っている。その結果、子どもたちの意識が

高まり、多くの本に親しむことができるようになってきている。しかし、これまでおすすめ本の紹介など、読書についての交流活動を行った経験がないため、自分の好きなジャンルの本に偏る傾向があり、高学年にふさわしい内容の本を選んで読んでいる児童は少ない。また、一定のテーマをもって読書する機会がなかったため、同じ本を読んで友達と感想を交流し合うなどの活動を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができていない。今回の読書会を通じて、同じテーマのもとで読書活動を行い、自分の感想と友達の感想を関わらせる活動を取り入れることで、読書を通じて自分の考えを広げたり深めたりできるようにしていきたい。

(4) 指導について

本単元では、古代の釘の見事さや白鷹さんの生き方や考え方を読み取る学習をきっかけにして、本の楽しさに気付く、自分の読書の世界を広げ、深めていくことができるようにするために、次の点に留意しながら指導していきたい。

「見通す」段階では、千年という時間の長さを考えたり、題名をもとにしながら内容を予想したりする活動を行い、第1教材文への興味関心を高めるようにする。また、視点をしっかりと与えて感想を書き、その感想をもとに学習計画を立てるようにする。その際に読書会を開くことを知らせ、見通しをもって学習を進めていくことができるようにする。

「深める」段階では、文章構成や文末表現、指示語が何を指し示しているかを正確にとらえて、古代の釘の見事さを読み取ることができるようにする。白鷹さんの思いや願い、職人としての意地を読み取るために、白鷹さんの言葉や行動から根拠となる文章に着目して、自分の考えがもてるようにする。

「確かめる」段階では、一人学びで白鷹さんの生き方に対する自分の考えをもち、学び合いで自分と友達の考えを交流することにより、自分なりの読みをもてるようにする。

「学ぶ」段階では、読書会のもち方を確認する。これまで読書会を行った経験がないため、読書会の進め方やメモの取り方などを詳細に確認しながら活動を行うようにする。また読書会がねらい通りに進むように、第1教材文での学習をもとに読み進める本のテーマを設定して活動を行うようにする。

「作る」段階では、本を探し出すことができない児童については、あらかじめ教師が探し出しておいた本を紹介する。また、教師が作製した発表用の原稿のモデルを例示し、発表の順序や聞き手を引きつける工夫、相手に伝えるために必要な構成の方法について、気付くことができるようにする。

また、発表会では、友達の発表から自分が気付かなかったところや学んだことをまとめ、自分の考えを広げたり深めたりすることのよさを実感できるように工夫する。

「広げる」段階では、読書会の感想を交流し合い、自分の読書活動の広がりや深まりを再確認するとともに、これからの読書計画を立てて、今後の読書生活に生かしていけるようにする。

3 学習指導目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

古代の釘の見事さや白鷹さんの生き方や考え方に興味をもち、読書会を通して自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。

(2) 読む能力

自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選び、本の内容や意図を簡潔に押さえながら読むことができる。

(読むこと ア)

古代の釘の見事さや古代の釘にいだんだ白鷹さんの生き方や考え方を叙述に即してまとめ、自分の考えをもちながら読むことができる。

(読むこと エ)

(3) 書く能力

自分が読んだ本について、根拠をもとに自分の感じ方や考え方を明確にして自分の考えをまとめることができる。

(書くこと ア)

(4) 言語についての知識・理解・技能

表現したり、理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣をもつことができる。

(言語事項ウ(ウ))

文章にはいろいろな構成があることを理解することができる。

(言語事項オ(ア))

4 指導計画及び評価規準

(計13時間)

過程	学習内容	評価規準		
		国語への 関心・意欲・態度	読む能力 書く能力	言語についての 知識・理解・技能
見通す	第1教材文を読んで、感想を書くこと。 (1時)	・すごいと思ったことやもっと知りたいと思ったことを感想にまとめようとしている。	読む ・与えられた視点をもとに、感想を書いている。	・送り仮名や仮名使いに注意して書いている。
	単元全体を概観し、学習の見通しをもつこと。 学習計画を立てること。 ○読書会を開くことを知ること。(2時)	・単元全体を概観し、学習の見通しをもとうとしている。	読む ・単元全体を概観して、単元のねらいについて理解し、読書会までの見通しをとらえている。	・新出漢字や語句の意味について理解している。 ・文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。
深める	古代の釘の見事さを読み取ること。 (1時)	・古代の釘の見事さを読み取ろうとしている。	読む ・古代の釘の材質・形・かたさの見事さを読み取っている。	・必要な語句について辞書を利用して調べている。
	白鷹さんの釘作りへの思いを読み取ること。 (2時)	・白鷹さんの釘作りへの思いを読み取ろうとしている。	読む ・白鷹さんの釘作りへの思いや願い、職人としての意地を叙述に即して読み取っている。	・必要な語句について辞書を利用して調べている。
確かめる	作品全体について自分なりの読みをもつこと。 (1時)(本時)	・白鷹さんの生き方や考え方に対する自分の考えをもとうとしている。	読む ・作品全体について自分なりの読みをもつことができる。	・必要な語句について辞書を利用して理解している。
学ぶ	読書会の方法を確認すること。 紹介する本のテーマを決める。(1時)	・読書会の方法を理解しようとしている。	読む ・読書会の方法や進め方を理解している。	・新出漢字や語句の意味について理解している。
作る	紹介する本を探し、発表に必要なメモを取りながら読むこと。 (1時・2時)	・紹介する本を進んで読み、メモを取りながら読もうとしている。	書く ・紹介する本を読み、発表に必要な内容を根拠をもとにしてメモにまとめている。	・必要な語句について辞書を利用して調べている。
	読書会に備えて、発表原稿を作ること。 読書会の準備をすること。 (3時・4時)	・自分の考えや思いが伝わるように、文章にまとめようとしている。	書く ・自分の考えや思いが伝わるように、必要な部分を落とさずに、聞き手を意識して文章を書いている。	・送り仮名や仮名使いに注意して書いている。
	読書会を開くこと。 (5時・6時)	・読み手に自分の考えや思いが伝わるように進んで発表しようとしている。	書く ・友達の紹介でよかったところや自分の発表に生かしたいところをノートにまとめている。	・必要な語句について辞書を利用して調べている。
広げる	これまでの学習を振り返り、読書会で深まった自分の考えを感想にまとめること。 これからの読書計画を立てること。(1時)	・これまでの学習を振り返り、これからの読書計画を立てようとしている。	書く ・これまでの学習を振り返り、読書会で深まった自分の考えを感想にまとめ、これからの読書計画を書いている。	・必要な語句について辞書を利用して調べている。

5 本時の指導（指導計画「確かめる」段階 1時間目）

(1) 目標

- 国語への関心・意欲・態度
- ・白鷹さんの生き方や考え方に対する自分の考えをもとうとしている。
- 読む能力
- ・作品全体について自分なりの読みをもつことができる。

(2) 指導にあたって

前時までの学習で子ども達は、白鷹さんの釘作りにかかる思いや願いを読み取っている。本時は、古代の職人と白鷹さんを比較し、学び合う活動を通して、作品全体を振り返りながら自分なりの読みをもつことをねらいとしている。

一人学びでは、白鷹さんが古代の職人を追い越したのかどうかを、根拠を明確にしてまとめる活動を行う。古代の職人をもとにして白鷹さんの釘作りを点数化し、その点数をつけた理由を考えることで、自分の考えをより明確にした学び合いができると考える。

全体での学び合いは、友達の多様な考えに触れることにより、自分の考えを広げたり、深めたりするよい機会になると考える。学び合いを通して、白鷹さんの釘作りへの思いや職人としての意地は、古代の職人と同じかそれ以上であるということに気付くことができるようにしたい。

また、一人学びでの自分の考えと学び合いを通じて深まった自分の考えとを比較してまとめることにより、白鷹さんの生き方や考え方に対する自分なりの読みを広げたり深めたりするよさを実感できるようにしたい。

(3) 展開

前時の学習	白鷹さんの釘作りへの思いを読み取ること。 ・白鷹さんの釘作りへの思いを行動や会話文から読み取る。		
段階	学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
見通す 2分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を把握する。 白鷹さんは古代の職人を追いこしたのだろうか。	・前時までに読み取った白鷹さんの釘作りに対する思いを振り返る。	・学習課題を把握し学習の見通しをもつことができたか。 (発言・表情)
深める	3 課題を解決する。 (1) 白鷹さんは古代の職人を追いこしたのかどうかを、根拠を明確にしてまとめる。 【一人学び】 (2) 一人学びの内容を全体で交流する。【全体での学び合い】	・一人学びの手順を確認する。 一人学びの手順 ・古代の職人を100点とすれば白鷹さんは何点なのかを考える。 ・そのように考えた根拠を、叙述に即してまとめる。 ・一人学びで自分がまとめた内容について、根拠を明確にしながら全体で交流しあう。 ・子ども達がつけた点数を大きく3つに分けて学び合いを行う。 100点よりも低い例 ・古代の職人は、今から見ても見事な釘を作り上げているから。 ・白鷹さんは古代の釘に追いつけるように納得した釘を作ろうとしているから。 ・白鷹さんは、もっといい釘を作ろうとしているから。	・白鷹さんは古代の職人を追い越したのかどうかを自分なりに考えようとしていたか。 (ノート・様子) ・学び合いを通して、自分の考えを深めようとしているか。 (挙手・態度)

28分		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 100点の例 ・よい釘を作るうという思いは、古代の職人と変わらないから。 ・古代の釘の見事さを見つけて、釘を作り上げることができたから。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 100点よりも高い例 ・古代の釘に負けない釘を作り上げたいという思いが強いから。 ・古代の釘を追い越した上で、もっといい釘を作ろうと努力しているから。 ・古代の釘を追い越した上で、さらに納得のいく釘を完成させようとしているから。 </div> ・現代と古代の釘作りの技術的な側面にばかり目を向けるのではなく、白鷹さんの職人としての生き方や考え方にも目を向けていくよう支援する。	
まとめ 15分	4 学習のまとめをする。 (1) 全体で学び合った内容をまとめる。 (2) まとめを発表する。 5 次時の学習内容を確認する。	・全体での交流の様子や板書を生かして、白鷹さんの生き方に対する自分なりの読みをもつことができるようにする。 ・一人学びでの自分の考えと比較することで、学び合いにより自分の読みが深まったことを実感できるようにする。 ・学び合いをもとに、根拠をしっかりとってまとめている子どもの考えを聞き合い、友達のまとめ方のよさに気付くことができるようにする。 ・次時の学習内容を確認し、読書会への意欲をもつことができるようにする。	・白鷹さんの生き方や考え方について、友達の考えをもとに自分なりの読みをもつことができたか。 (ノート・発言)
次時の学習	読書会の方法を確認する。 読書会で紹介する本のテーマを決定する。		

(4) 具体の評価規準

観 点	評 価 規 準	努力を要すると判断された児童への具体的な手立て
国語への 関心・意欲・態度	・白鷹さんが古代の職人を追い越したのかどうかを、根拠を明確にして考えようとしている。	・一人学びで自分の考えをまとめる際に悩んでいる子どもには、自分がつけた点数の根拠を一緒に考え、できたことを認め、励ますようにする。
読む能力	・一人学びでの自分の考えと学び合いを通じて深まった自分の考えとを比較し、作品全体に対する自分なりの読みをもっている。	・悩んでいる子どもには、全体で交流した内容を振り返ったり、板書している内容を見直したりすれば良いことを助言する。